

令和元年度盛岡第二高等学校第1回学校評議員会 記録

令和元年6月26日(水)

14:40~16:50

場所:盛岡二高 応接室

進行:副校長 記録:総務課

○出席者 学校評議員 5名

学校職員 9名

○日程 14:30 受付 14:40:授業参観 15:20:評議員会(～16:50)

(1) 開会の言葉 【進行:副校長】

(2) 校長挨拶 【校長】

本日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。ただ今、本年度の学校評議委員を御委嘱申し上げます。1回目となる本日の会議では、今年度の学校経営計画や重点目標等について皆様からの忌憚のない御意見を賜り、今年度の学校経営に生かしてまいりたい。

(3) 平成31年度学校概況説明

ア 学校経営計画について 【校長】

1 校訓、2 教育目標は資料のとおり。

3の「育成したい資質・能力」の項目については、今年度から新たに設定した。

4の「今年度の重点目標と取り組み方針」については、若干昨年度とは変えてある。

学校として特に大事にしたいことは、3点。

1 3年間の学習と部活動の両立を基本とした充実した学校生活を送らせる中で、生活習慣を確立させること。

2 生徒たちに生きる力と主体性を身に付けさせること。

3 個々の生徒に将来への夢を持たせ、その実現のために進路目標を達成させること。

イ 各課取組状況について

(総務課)【総務課主任】

1 庶務・行事などの諸活動を円滑に運営する

・式を重んじ、今の生徒の想いを反映できるような式にしたい。

・「皆勤精勤」:記念品の校章刺繍入りの袱紗を使いこなせる女性になって欲しい。

2 PTA(白梅振興会)活動の活性化

・PTAの理事会、白梅振興会理事会、総会の運営の特色として、PTAの各役員・保護者の方々の協力で「研修、広報、母親健全等のPTA各委員会の活動」が活発で、引き受けた方のやりがいにも通じている。

・PTA・白梅振興会会計:平成25年に余剰金が多いということで徴収金を値下げし、それによる余剰金減の措置が順調に進み、数年以内に25年度以前の徴収金額に戻す。

5 130周年に向け資料を整備する

・120周年を体験者が、困った部分や苦勞した部分の記録の積み重ねをしておく必要あり。

・120周年では、資金の調達について卒業生の方から大変多くの協力をいただいた。

6 白梅同窓会との連携運営

・大きな行事二つ。総会は今年7月7日に開催。3月の会報発送

・若い人たちの参加が少なくなっている。寄付金減少が懸念される。

(教務課)【教務課主任】

重点目標は 1 生徒の学力向上 2 教員の授業改善の推進 3 円滑な校務運営である。

特に1, 2を重視している。

[主な取組]

- ・「授業の集中力を高める取組」や「教員の授業改善」を全職員で共有している。  
特に「研究授業や互見授業の充実を図る」に力を入れる。
- ・家庭学習時間の目標の平日2時間、休日4時間を達成している生徒が半数ほど。
- ・家庭学習時間目標を意識した生活習慣の確立を推進している。
- ・「きめ細かい教科指導を図る」部分に関して、生徒への声掛けを推進する。
- ・勉強や家庭生活に関するアンケートを実施・分析し担任と共有する。
- ・スマホ使用時間が多いことが問題で、スマホの使い方、家庭での過ごし方を指導する。
- ・各部において、顧問から、家庭学習の充実に向けた声掛け等を推進する。

(生徒指導課)【生徒指導主任】

- 1 生徒規律の確立
  - ・基本的な生活習慣、整容、問題行動。現在のところ特に大きな問題は起こっていない。
  - ・小学校1年生で5割が携帯を持っているのだから、高校に入ってからマナー指導は難しいと感じる。
  - ・本校は女子校なので、被害者になる確率が高くなるので、心配している。
  - ・問題が発生しないのが一番だが、全く出ないのも心配で、陰でどういう状況になっているか想像できない点が不安である。
- 2 生徒会活動
  - ・応援歌練習がきっかけの不登校や、長期欠席はなかった。なかなか変わらない部分もあるが、応援団の改善によって、効果が現れていると感じる。
  - ・大きな問題は、部活動の在り方についてである。部活動の本来の在り方、在るべき姿、学校での役割を検証する必要がある。
- 3 安全指導
  - ・これまで事故の報告はない。朝の自転車通学の指導を今実施しているので、重ねて注意喚起していきたい。

(進路指導)【進路指導主任】

- 1 進路講演会、進路ガイダンス、『総合的な学習・探究の時間』の充実
  - ・進路講演会を企画。山形大学の門馬先生、東京学芸大学の佐々木先生の進路講演会を予定。
  - ・「進路ガイダンス」、「出前講義」、「卒業生を語る会」を開催し、進路意識向上を図っている。
- 2 職員研修の充実
  - ・2020年度入試からの新テストに向けて校内研修や外部研修に参加して、対策を練っている。
  - ・他校視察は、3月に高崎女子や群馬・埼玉の女子高校を訪問、6月に千歳科学技術大学、北海道教育大学、北見工業大学を訪問し、校内研修を実施した。
- 3 P T A進路学習会の充実と参加率の向上
  - ・昨年度からP T A進路学習会を土日開催として保護者が参加しやすいようにしている。
  - ・学年によって土日の2日間で開催する場合あり。多くの保護者に、参加していただきたい。
- 4 推薦AO入試に向けた人材発掘と育成・センター試験対策と2次試験対策の充実
  - ・特徴として、大学進学は推薦を利用する生徒が多い。
  - ・推薦指導は140名前後の生徒に実施している。140名という数は、県内の高校でずば抜けて多い数字。

- ・岩手大学・県立大学の推薦合格率は県内の進学校中でトップである。
  - ・合格率では高い数字であり、職員の指導が成果と結びついている。
  - ・岩手大学や県立大学に一般入試で合格した生徒がおり、推薦指導から一般受験までの幅広い生徒層に対応している。
- 5 課外の充実
- ・土曜日の課外は「好文の日」と称し、3年生のみの実施である。
  - ・生徒の幅広い進路希望のニーズに対応すべく、全職員で頑張っている。

(保健厚生課)【保健厚生課長】

- 1 健康管理及び保健指導の徹底
- ・定期健康診断は、6月までに終了する。
  - ・身長は全国県平均と変わらない。
  - ・傾向として体重は中学の後半で増え、高校2・3年と徐々に痩せ、ようやく平均を下回る。
  - ・アレルギーの生徒が増えおり、アレルギー性鼻炎や結膜炎が多い。
  - ・内科や貧血の治療率は良いが、歯科治療率が20%程で全体の受診率を下げている。
  - ・今年度は治療率50%を目標とする。歯科の治療率向上のため、歯科の健康教室を年内に実施し、冬休み中の受診を推進する。
  - ・健康教室は、1年生で薬物乱用防止教室を行い、全学年で2回ずつ行っている。
  - ・6月に職員を対象にエピペン講習を行った。本校は、現在2名がエピペンを所持している。生徒が発作を起こした際、どの職員でも対応できるための講習である。その際、迷わずAEDを使うことも併せて学習した。
- 2 保健衛生及び安全管理指導の徹底
- ・校内はきれいに保たれている。大きな行事の前には保健委員によるクリーン作戦等を実施し、きれいな環境でお客様を迎えることを心掛けている。
  - ・白梅幼稚園との合同避難訓練・城南小学校避難訓練補助・被災地訪問を実施する。
- 3 保健組織活動の充実
- ・保健室にクーラーを入れる工事が行われた。

(4) 懇談

○進行：「学校は行こう週間」について御意見を伺いたい。

評議員

- ・二高では「学校へ行こう週間」は何日の設定で、何人来校しているのか教えてほしい。
- ・「行ってみよう」と友達に声を掛けたが、高校生のお孫さんがいる方がいない。
- ・学校へ行こう週間の案内が欲しいと思う人はいる筈だが、どこにいるか分からず、難しい。
- ・地域の人に来て欲しいという話だが、町内でも二高生は一人、小学生も中学生も殆どいないのが現状。
- ・学校へ行こう週間の焦点が掴みにくいのが、盛り上がらない原因の一つだろう。
- ・個人的には、ハードルが高い。
- ・邪魔になるかもという遠慮の方が強く、評議員3年目になるが、学校へ行こう週間には1度も来たことがない。
- ・マスコミ等を活用して宣伝した方が良いのではないかな。
- ・内容が漠然としすぎている気がいつもしている。
- ・この期間以外にも二高の生徒の活躍は盛岡タイムスや岩手日報等に記事として載ることの

方が地域に対するアピールになり、我々は頑張っているという気持ちになれる。

- ・「学校へ行こう週間」に人を集めたいならば、例えば週間のうちの1日を保護者デーという設定をして授業参観を1コマ設定するなどの場面を設ければ、保護者の出席率が上がるかも知れない。その日は清掃時間を設けず、すぐに学級懇談会をして、進路について深い話はできないかも知れないが生徒たちの様子を担任の先生から聞いてはどうか。

総務課：今年は11月のみの実施予定。近隣の方々に学校を開くのが本来の趣旨だが、実際は一日体験入学や文化祭の形で、受験を希望する中学生がほとんど。近所の方々に来ていただきたいが、授業公開という形式に魅力が感じられなかったり、静った学校を歩くイメージに気づまりを覚えたりと余り人気がなく、このままでよいか、と思索している。今年度は11月5日の火曜日から8日の金曜日までを予定している。

○進行：地域参加で、どのようなことを二高生に期待されているか、御意見をいただきたい。

評議員

- ・二高生には世話になっている。天満宮の例大祭にはマンドリンギター部に出演してもらう予定である。
- ・町内会の敬老会に3回程来てもらっており、県民会館で催しがあった時には近所の人々も見に行っている。色々な形で、二高ここにありと示せるような活動になっている。
- ・資料に今年度の行事が載っているので、できるだけ行ってみようと思っている。
- ・行事が集中する時期があるので、状況を把握して計画したら尚効果があるのではないか。
- ・桜の頃に、岩手公園に行ったらマンドリンギター部が演奏していた。とても上手に演奏しているのに遠くに聞こえないのが残念だった。
- ・学校の文化祭とか、吹奏学部やマンドリンギター部の定期演奏会なども、地域の方々に愛されるチャンスだと思う。

○進行：教務課について、「本日の授業参観ではどのような感想を持ったか」と、「本校生徒の学力等、学習面に関する印象」、学力向上のアイデアについてお聞かせいただきたい。

評議員

- ・全員一斉に前を向いて先生が一方向的に教える展開の授業だけでなく、色々な工夫が為されていた。
- ・テストを返却しているクラスで、単に正解に導くだけでなく、生徒の考え方をきちんと認めているところが良いと思った。
- ・自己肯定感を育てる、あるいは高い自己肯定感を持つようにするためには、その子の成功やプロセスでの良いところをきちんと時を逃さずに評価してあげると、何でもないようなことでも、その子の成功体験になって積み重なり、自分自身の大きな自信につながっていくのだと思う。自己肯定感を高める結果に結び付けるために、授業の中でもほんの些細なことをぜひ積み重ねてもらいたい。
- ・1年生と3年生の背中が違う。3年生なのだ、という空間。どのクラスも和やか、自然な形で授業を受けており、とても良かった。1年生も今は学校に慣れている印象を受けた。
- ・学力がかなり高い生徒と、指導に苦勞する生徒とに分化しているという話があったが、それぞれの生徒層に対しての具体的な手立てとしてやっていることがあれば教えて欲しい。

教務課：上位者は、学年で上位20人～30人を対象に昼休みや放課後に特別講習を行っている。下位者は、個別指導や添削を各教科で各々の職員の判断で実施している。

評議員

- ・日比谷高校で生徒が授業するのを見た。一方的に先生が正解を言い、間違っているところを指摘するよりも、生徒に授業をさせて皆でそれに意見を出し合った方が、受け身になら

なくて良いと感じた。

- ・高校は黒板が大きくて羨ましい。中学校の1.5倍くらいのスペースがあって、色々なことが書けて良いと思った。生徒たちの明るく元気で主体的な姿を見ることができた。
- ・中学校や高校で指導すべき内容は、たくさんあるので、アクティブラーニングとかと一言いながらも、自分でしっかりと課題に向き合い、知識を獲得していく構成主義は、基本的に悪ではないんだ、いいんだ、という感覚を持っておくべき。
- ・中学校ではかなりの学力差が出る。率直に聞くが、どのくらいの学力幅で生徒は入ってくるのか。

校長：極端に低い生徒はいない。上はまちまちで、一高・三高にも通用する学力で入ってくる生徒も、少数ではあるが、いる。幅は広い。

○進行：生徒指導課のことについて、御意見をいただきたい。「登下校時の自転車通学や公共交通機関の利用者マナーについての印象」、「生徒の身だしなみについて校外での印象」、「本校の部活動やその他の生徒の活動の印象」、等についてお聞かせいただきたい。

校長：今日、体育館に入った時等は皆挨拶してくれたが、近所に住んでいる生徒などはどうか。「おはようございます」と、頭をペコッと下げたりするのかなどということも、伺いたいところである。

#### 評議員

- ・ふざけたり、スマホを見ながら歩いたり、という生徒はほとんど見かけない。自転車も車道を通っている。かなりマナーは良い方だと思う。
- ・ただ、一人しか歩けないような形で雪が積もり、どちらかが避けないとすれ違えないような時、こちらで避けても、軽く会釈してから通る生徒は殆どいない。
- ・傘を差していた時のこと、すれ違う時お互いに傘をちょっとどけ合うと、相手が少しニコリしながら目で挨拶してくれた、見たら外国人だった。それに比べると、日本の生徒は悪いとは言わないまでも、必ずしも皆良いとも思えない状況がたまに見受けられる。ただ、他校の生徒に比べて、歩道での自転車の乗り方などは良い方だと思う。
- ・信号機がなくて小学生なども渡りにくいところがあるが、二高の生徒が渡れない小学生と一緒に連れて渡らせてあげているのを何回か見かけて、涙が出るくらい嬉しくて「いいぞ二高生」と車の中で叫んでいた。
- ・他の高校に比べたら、こちらの街中でも自転車で飛ばしている子がほとんどいない。きちんと時間に余裕を持って出掛けられる二高生は素晴らしいと私は思っていた。鼻真目もあるのかもしれないが、マナーが良いので、先生たちの指導が良いのかなと思った。
- ・スマートフォンについて、小学生でもかなりの所持率であることを聞いてびっくりしたがその時々で教え方というものがあると思う。
- ・個人の経験だが、毎日友達との携帯でのやりとりを毎日、1ヶ月あるいは1年間積み重ねると何時間になるかを計算させた。娘も考えて、その時はいらないということで1年間は持たなかった。部活動の連絡などがあるので、2年目からは持たせた。結果的に携帯を手離せないという状況は今でも全く見られない。その年齢、要求に応じて、「これだけ損するんだよ」と言うのが、とてもわかりやすい説得の仕方なのかと思ったりする。どう付き合っていくかは、どの時点でも教育できると考えている。

○進行：「進路指導課について」「これからの社会で求められる力について」「女子高の魅力と将来的に二高生の果たす役割とは何か」等について、お願いしたい。

#### 評議員

- ・目指すべきは学校教育目標の実現だろう。また、育成したい資質能力も明確になっている

ので、これを目指して実践していくことなのだろう。議題でいうと、総務課の学校へ行く週間も、教務課の研究授業、生徒指導課のマナー指導、或いは保健厚生課の防災教育も、学校教育目標のためのツールなのだろう。決してブレずにこの目標の実現に向かうという姿勢でよろしいかと思う。

- ・中学生や小学生から聞くと、「女ばかりだから揉め事が多いのではないか」という憶測があるが、学校経営計画でも、自分の考え方を伝えて、違う意見でも摺り合わせて協力してやることが挙げられ、それが二高生にはできると思う。仕事が沢山あるのはやれば終わるが、人間関係の場合はなかなか上手くはいかない。女子同士の揉め事といっても、二高では少ないので、人間関係を3年間で学んでいけることも魅力として伝えて欲しい。女子高として続けていけるように、生徒獲得ためのアピールポイントにしていくと良い。

#### 【推薦入学についての議論】

評議員：推薦が140名ということだが、それは生徒自身の希望か。

進路指導課：そのとおり。二高は推薦で大学に行く生徒が多いから、指定校も多いと中学校や塾から言われ、入ってくる生徒が多いと聞いている。推薦入試を一つのチャンスとして生徒は使っているので、それに対応して指導している。

評議員：何か不思議な気がする。どの学年も、気持ちが穏やかで感じの良い生徒ばかりが集まっているのに、どうしてみんな推薦なのだろう。

評議員：推薦で行けるのだったらこの程度でいいかな、ということで勉強するようでは困るのではないか。きつともっと力がある。もっと一般受験が多くなるようにはできないか。良いお嬢さんばかりなのに、「この辺でいい」と思わないでもっと頑張ったらもっと良い二高になるのではないか、と思ったのだが、どうか。

進路指導課：もっともな意見だが、一般入試で突破できる生徒はもう一握りである、というのが実は最近の二高の現実だ。

評議員：そこは先生が頑張ったらどうか。

進路指導課：それはもう全職員頑張っているところである。

評議員：やはり中学校から、二高は推薦で進学する学校だと指導されているのかも知れない。

進路指導課：現在二高の立ち位置というのが、一般受験を目指すのなら他の高校、推薦を目指すなら二高という指導で、それを目指す層が入ってきているのではないか。

評議員：最初から推薦という希望があれば、その方向で対処するのか。

進路指導課：一般受験で戦えるように力を付けようと、授業の中でも課外でも言っている。

評議員：確かに、センター試験は全員受験だという話だった。それであればもう少し頑張っても良いのではないか。素敵なお嬢さんたちにも学力だけではなく忍耐力とか頑張る力がついて、とても良いのではないかと思うのだが、いかがか。

進路指導課：全くそのとおり。生徒に、毎日言っている。一般でも戦えるように頑張っているが、なかなか本当に、やるのが幅広い。

評議員：いつ頃からそういう流れになったのか。

進路指導課：国公立大が推薦入試で入れるようになってからではないかと思う。

評議員：他所もそういう状況なのか。

進路指導課：そのとおりで、他の学校でも100人以上が多い。

評議員：他所に習わなくても良いのではないか。

進路指導課：大学も推薦の定員をどんどん増やしている。

評議員：子どもの数も減ってきており、レベルの高い大学ほど、良い生徒を確保しようとしているのだと思うけれども。

評議員：二高は指定校の推薦が多いという評判が、保護者から広まっていることはある。  
進路指導課：1年生の頃からもう、指定校のリストを見せて欲しいと要望する保護者も多い。  
評議員：親子共々そのような今の社会の風潮かも知れないが何とか頑張ってもらいたい。  
評議員：どのクラスも、とても良い子たちだと思う。推薦の人数だけにこだわるわけではなく、一般受験でも通用する力をつけられれば、もっと素晴らしいのではないか。  
評議員：私が高校の頃だったら、推薦は、ものすごく優秀な、トップの数%もないくらいだったと思う。

進路指導課：かなり違ってきている。国公立も私立も、本当に様々な形式で行われている。  
評議員：多様化しているのは理解できる。

進路指導課：私大では特に、人を集めるために様々な条件で推薦を募っている学校が多い。  
評議員：二高ブランドがどこまで推薦に通用するのか、推薦されさえすれば大丈夫だという境界線はあるのだろうか。

進路指導課：高校内の選考条件はある。

評議員：二高の卒業生達がどこへ行ってもきちんとやっていけるのは、そのとおりだと思う。しかし、将来に向けて何らかの強さも加えたらどうかという思いだ。

○進行：保健厚生課について。地域や異校種間の連携による防災教育について具体的にどのような連携が可能か、実際に小学校・中学校・地域ではどのような対策ならびに防災対策を実施しているのか、情報提供をお願いしたい。

評議員：「白梅幼稚園との合同避難訓練」という記載があるが幼稚園に行って救助するのか。

保健厚生課：白梅幼稚園は防災訓練の際に二高への二次避難訓練も実施している。幼児教育希望生徒一人が園児一人と手を繋ぎ本校体育館ピロティーマでの避難を行った。生徒たちは、自分の将来就きたい仕事でもあり、非常に張り切ってやっていた。このような取り組みを拡大できないか。実際に災害が起こった場合は、自分の学校だけではなく地域の方々などと世代を超えての避難も必要だから、一緒にできることがあれば良いと思う。毎年新しいことを加えて行きたい。

評議員：もし何か起きた時には、私は幼稚園に行く人というような分担を作っているのか。

保健厚生課：そういうことはない。

評議員：クラスの中で何人かが幼稚園に走るというのもあってもいいのかも知れない。

評議員：盛岡は、景観の良い川が流れているが、橋が一つでも落ちたら息ができなくなる構成である。もしここが避難所で、地域の人が避難してきた時に、避難所の運営を生徒がどのようにやったらいいのか、怪我している子などがいたらどうするのかを、基本的なことでもいいから知識として身に付けさせたらベターではないか。

(5) その他

○進行：概ね時間になってきたので、他に何か提言をいただければ。

評議員：5階の教室に行くと後ろに扇風機があるが、前の席の子は暑くないのか。

生徒指導課：夏になると、前の方にも縦型の背の高い扇風機がつく。

評議員：後ろの扇風機も、今はつけていないと思うが。

校長：去年随分暑かったので、全教室に入った。

○進行

いただいた御意見をもとに改善するように、努力させていただく。

(6) 閉会の言葉 【副校長】